

令和 7（2025）年度 自己点検・自己評価結果概要

1. 自己点検・自己評価の取り組み

本校では、自己点検・自己評価の取り組みとして、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書を基に点検・評価項目を見直し、9 領域のカテゴリー及び 124 項目の小項目を設定した。そして、作成した評価表を基に自己点検・自己評価を実施した。

2. 方法

作成した自己点検・自己評価表に基づき本校教員が自己評価を行う。その集計結果を踏まえ次年度の目標を導き出す。

1) 評価項目

・9 領域 124 項目

I. 教育理念・教育目的、 II. 教育目標、 III. 教育課程経営、 IV. 教授・学習・評価過程、 V. 経営・管理過程、 VI. 入学、 VII. 卒業・就業・進学、 VIII. 地域社会／国際交流、 IX. 研究

2) 評価基準

・5 段階評価（1：当てはまらない 2：やや当てはまらない 3：どちらとも言えない
4：やや当てはまる 5：当てはまる）

3) 対象者

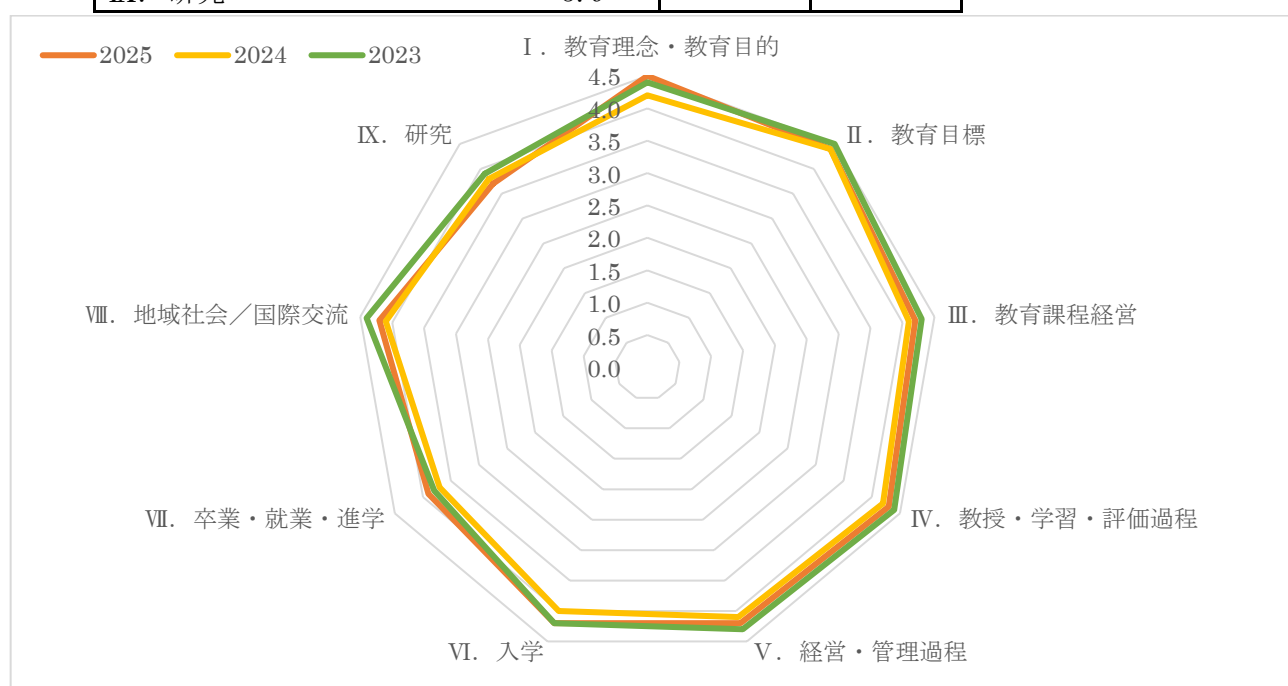
・教員 16 名（看護学科、助産学科）

4) 評価時期

・令和 8 年 2 月

3. 評価結果

項目	2023 年度	2024 年度	2025 年度
I. 教育理念・教育目的	4.4	4.2	4.5
II. 教育目標	4.5	4.4	4.4
III. 教育課程経営	4.3	4.1	4.2
IV. 教授・学習・評価過程	4.4	4.2	4.3
V. 経営・管理過程	4.3	4.1	4.2
VI. 入学	4.2	4.0	4.2
VII. 卒業・就業・進学	3.8	3.7	3.9
VIII. 地域社会／国際交流	4.4	4.1	4.2
IX. 研究	3.9	3.8	3.7



I. 教育理念・教育目的

II. 教育目標

現在の学生像、目指すべき卒業生像について教員間でディスカッションし、見直しを行っている。

教育理念・目的・目標に立ち戻り共通理解を図る作業を行うことが、評価に影響したと考える。

III. 教育課程経営

38.「教員が授業準備のための時間を取れる体制を整えている」が3.7で最も低い。2026年より出欠管理、成績管理のシステムを導入したので、改善を期待する。

IV. 教授・学習・評価課程

54.「授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている」61.「学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている」が低い評価となっている。現在、カリキュラムの見直しを行っている。また、授業評価についての検討が進んでいない。

V. 経営・管理課程

組織の意思の伝達の頻度が上がったことで、全体的な評価が上昇していると推測する。

VI. 入学

入学者選抜基準を明示し、入学者の選抜に臨んだ。

VII. 卒業・就業・進学

卒業生および就業先管理者へのアンケートを実施し、活動状況を把握することはできた。

VIII. 地域社会/国際交流

地域との繋がり（災害ボランティア、土曜スクール等）の手がかりが出来た。更に拡大していく。

国際交流については、海外研修先を開拓している。

IX. 研究

優先度が低くなっている状況が続いている。業務整理をして研究への意識付けが必要と考える。

4. 2025年度重点目標評価

1) 入学者の確保

指標：受験者数、入学者数の増加

看) 学生募集活動の対象を拡大する。

受験者 65 名 (R7) ⇒ 56 名 (R8)

入学者 49 名 (R7) ⇒ 40 名 (R8)

助) 施設推薦入試による学生を 1 名以上確保する ⇒ 2 名入学

受験者 62 名 (R7) ⇒ 61 名 (R8)

入学者 14 名 (R7) ⇒ 18 名 (R8)

2) 基礎教育と卒業後の連携

指標：卒業生の職場適応

看) 卒業時および卒業後のアンケートを基に評価する。

⇒教育目標は概ね達成されているが、主体的学習・協働力・メンバーシップ・リーダーシップ・倫理観に基づく行動において課題であることから、教育活動（講義・演習・実習）を通して思考発話の機会を充実させ、学習や問題解決における思考過程の促進につなげていく。

助) 卒業 1～3 年目に対する支援体制の強化を図る。

⇒同窓会に参加した卒業生に対し動向調査を実施したが、全体把握には至らなかった。

3) 教育効果の評価と向上

指標：認定試験、実習評価、国家試験の結果

看) 入学前・入学後基礎学力支援担当と連携し対象学生の支援に努める。

担当する教科科目の授業設計を見直す。

臨地実習における指導法を見直す。

⇒各教科担当においては、学生観・指導観・教材観に基づいた授業設計は概ね行われているが、教育に関する状況や変化の共有は十分に図られていないことから、教育目標およびディプロマポリシーに基づき、各教科科目の授業設計（科目目標・履修概要・教授方法・評価方法）を見直して、教育活動の一貫性を高め、学生の「学ぶ力」の育成を目指す。

助) 演習による技術とアセスメント力の強化を図る。

⇒分娩介助件数の不足に対して、学内演習で補習した。

4) 教員の教育力向上

指標：授業評価、教育効果の評価

看) 研修参加と受講後の報告を推進し共有を図る。

⇒校法人や病院関連のFDやSD研修に参加し受講している。また、教育活動に関する各種Web研修や学会へも個々参加しているが、受講後の報告を通じた情報や思考の共有は、十分な風土が形成されていない。受講後の報告の機会を積極的に推進し学生教育に活かしていく。

助) 授業評価において臨床指導者や教員の他者評価を取り入れる。

⇒演習では、他教員からの意見を求めているがデータとして残せていない。
評価表がないこと、検討会等の場を設けていないことが原因として考えられる。